

再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名 一般国道3号 <small>はかた</small> 博多バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局			
起終点 自：福岡県福岡市東区下原 <small>ふくおかしひがしくしもぼる</small> 至：福岡県福岡市東区二又瀬 <small>ふくおかしひがしくふたまたせ</small>	延長 7.7km				
事業概要 博多バイパスは、国道3号の交通混雑の緩和や交通安全性の確保を図るとともに、博多港や福岡空港などの広域交通拠点への円滑なアクセスを目的とした事業である。					
S43年度事業化	S21年度都市計画決定 (S43年度変更)	S44年度用地着手	S46年度工事着手		
全体事業費	約462億円	事業進捗率	89%	供用済延長	4.4km
計画交通量	54,400～77,000台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (残事業/事業全体) 52/1,035億円		総便益 (残事業/事業全体) 735/6,043億円	
	5.8 (残事業) 14.2	事業費：36/971億円 維持管理費：16/65億円		走行時間短縮便益：693/5,040億円 走行経費減少便益：33/769億円 交通事故減少便益：8/234億円	
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=5.7～5.9（交通量 ±10%） 事業費：B/C=5.8～5.8（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=5.8～5.8（事業期間 ±20%）					
【残事業】交通量：B/C=12.6～15.6（交通量 ±10%） 事業費：B/C=13.2～15.2（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=13.8～14.5（事業期間 ±20%）					
事業の効果等 ①交通混雑の緩和 ・並行する国道3号現道の交通混雑緩和及び旅行速度の向上 ②交通安全性の確保 ・生活道路（県道町川原福岡線等）への迂回交通が排除され、地域住民の安全性が向上 ③物流・業務活動の支援 ・並行する国道3号現道に集中する物流が分散し、定時性が向上 ・時間信頼性の向上 ・沿線まちづくりとの連携 ④医療施設までのアクセス改善 ・第三次救急医療施設（九州大学病院）への救急搬送の支援及び救急搬送時間短縮による救命率の向上 ⑤公共交通の利便性向上 ・公共交通（国道3号現道における路線バス）の定時性の確保 ⑥生活環境の改善 ・自動車の走行性向上による環境への影響低減（CO ₂ , NO ₂ , SPM削減）					
関係する地方公共団体等の意見 福岡県内28市で構成される①福岡県市長会（会長：久留米市長）、福岡市をはじめとする9市8町で構成される②福岡都市圏広域行政推進協議会（会長：福岡市長）により早期整備の要望を受けている。（①平成26年6月、②平成26年8月）					
市の意見： 「対策方針（原案）案」に異存はありません。引き続き整備促進をお願いいたします。					
事業評価監視委員会の意見 審議の結果、事業継続。					

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

沿線地域の人口は増加傾向。沿線地域の一世帯あたりの自動車保有台数は横這い。並行する国道3号現道の交通量は増加傾向。

事業の進捗状況、残事業の内容等

昭和43年度に事業化、用地進捗率99%、事業進捗率89%（平成26年3月末時点）
昭和54年度：松島三丁目交差点～新二又瀬橋交差点間 延長1.9km（6/6）部分開通
平成元年度：松島交差点～松島三丁目交差点間 延長0.6km（6/6）部分開通
平成7年度：松崎中学校前交差点～松島交差点間 延長0.8km（5/6）部分開通
平成16年度：若宮入口交差点～松崎中学校前交差点間 延長0.3km（5/6）部分開通
平成20年度：多々良中西交差点～若宮入口交差点間 延長0.8km（5/6）部分開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。
平成29年度：福岡市東区下原～松島交差点間 延長5.2km（6/6）開通予定

施設の構造や工法の変更等

施設の構造や施工等に変更はないが、新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。